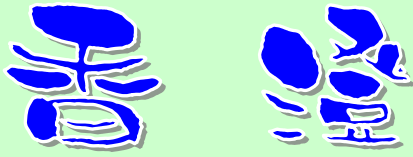


パートナー情報誌



### 第37号

発行日：2014年2月1日

発行人：パートナー情報誌「香澄」編集部

編集員：浅野明宏、有吉潔、稲葉寛、尾形孝彦、  
栗原知彦、新関紀文、平江俊之、安川敏行、  
目次隆、川田千明、渋谷一貴、戸井昌子

## 平成25年度 パートナー全体研修・交流会開催のご案内

パートナー活動開始から満9年になりますが、今年もパートナーの皆さんとのグループを超えた研修・交流会を開催し、コミュニケーションを図ると共に、パートナー活動の更なる充実を目指し、節目となる活動10年目に繋げてゆきたいと思っております。

昨年度は、センターのご協力も得た中でパートナー、センター関係者も含め多くのご参加を頂き、株式会社ウィンド・パワー代表取締役 小松崎 衛氏による「再生可能エネルギーについて」の貴重な講演を拝聴し、パートナーにとって大変有意義な全体研修・交流会となりました。

全体交流会に関するアンケート結果でも、全体交流会への参加及びプログラムについては、「非常に良かった」又は、「良かった」と大変好評でした。参加して「得ることがあった」との多くの回答があり、研修・交流という目的はある程度達成されたと考えます。なお、今回もアンケートを取らせて頂き、更なる充実を目指したいと思っております。

本年度は霞ヶ浦環境科学センター 相崎 守弘センター長のご講演も予定させて頂いておりますのでご期待下さい。

各グループの活動状況につきましては、昨年同様に一年間のまとめとして紹介して頂き、共有化を図りたいと思っております。

開催日程は平成26年2月22日(土)を予定しております。スケジュール等詳細は別途ご案内しますのでご覧ください。

普段は交流の少ない他グループのパートナーの皆さんと交流を深め、有意義なひと時を過ごしたいと思います。ご参加をお待ちしています。  
(企画部会：尾形)

## 環境学習フェスタを開催します

霞ヶ浦環境科学センター環境学習フェスタを平成26年2月15日(土)に開催いたします。この催事は、県内小学生による「環境学習発表会」を主催事として、湖上体験スクール参加校感謝状贈呈、霞ヶ浦流入河川水質調査協力校感謝状贈呈、センターパートナー感謝状贈呈をおこなうとともに、研究室一般公開、おもしろ科学教室、霞ヶ浦クイズラリー等の各種体験型イベントを実施する予定となっております。

当日はパートナーの皆様にご協力いただき、環境学習フェスタを盛り上げていきたいと考えていますのでご協力の程、よろしくお願いいたします。  
(センター：塩原)

## ご近所探訪(10) 水戸街道 土浦宿— 江戸町家の名残

徳川家康は関が原の勝利以後、まずは、子頼房を水戸に配して奥州への備えとし、江戸と結ぶ幹線道路を整備した。これが水戸街道で、主要五街道に次ぐ重要な脇街道として、道中奉行が直轄管理して建設した。土浦藩主・松平信吉（第2代）は水戸街道を土浦城下に通し、慶応9年（1604）には開通している。土浦藩内には4つの宿場（荒川沖宿、中村宿、土浦宿、中貫宿）を設けているが、中でも土浦宿は藩主お膝元の城下町として重要な位置を占めることとなる。

慶長18年（1613）には、土浦三橋（銭亀橋<現存>、簀の子橋、桜川橋）も架設され、陸路が貫通し、さらには、利根川改修事業により江戸との水系が確保されて、高瀬舟による物と人との流通も盛んになっていく。

また藩の奨励もあって、真鍋、銭亀橋、東崎などで大市が開かれ、特に中城天満宮境内の駒市では1日700匹以上の馬が商いされた（宝永8年「中城町御用日記」）という。

土浦宿には本陣が2カ所、旅籠、問屋、立派な蔵を持った商家などが軒を連ね、大いに賑わったという。旧水戸街道土浦宿の中心街である中城通り（現中央1）には、江戸後期の繁栄ぶりを示す商家の家並みが見られる。

### \*まちかど蔵「大徳」

創業は天明5年（1785）の呉服商、大国屋徳兵衛（大徳）家の4つの蔵である。見世蔵は1階は店舗として使用していた。梁組みが見ごたえある。2階は奥が住まいで、豪商の贅をこらした内装がすばらしい。例えば、

- 十畳間のザクロの床柱
- 杉材の天井板と畳が同じ並びにそろえてある
- 縁側の長い廊下は継ぎ目のない一枚板
- 欄間には近江八景の木彫りの彫刻
- 八畳間の天井棹縁のねじれ加工

など、専門家や好事家にはたまらない贅沢であろう。

袖蔵は商品の保管庫だったが、現在は土浦市の観光展示。元蔵と向こう蔵は商品や家財道具の収納庫として使用していた。天保13年（1842）築で、いずれも外観は見学できる。現在、1階の一部は、土浦市観光協会の事務所とみやげ物店のスペースとなっている。

### \*まちかど蔵「野村」

母屋、袖蔵、文庫蔵、レンガ蔵からなり、正面右の袖蔵は安政6年（1860）の建築。江戸時代から続く商家で、砂糖などを扱っていた。レンガ蔵は手作りのレンガを積み重ねたイギリス積み工法で、明治の香りが漂う。現在、喫茶店として使用。「大徳」、「野村」とも、景観重要建造物 土浦市指定第一号と第二号。

### \*矢口家住宅

天保12年（1841）の中城大火後、防火建築として建てられた。瓦葺き、塗り込め造り、桁行き五間の土蔵造主屋と店蔵、元蔵から成っている。県内に現存する蔵造りでは、母屋と店蔵が並んだ町屋建築の中でも屈指のものだそうだ。震災により破損し、解体、修理中である。現在も酒屋を営業中である。

なお、この中城通りの旧水戸街道には、駒市の中城天満宮、等覚寺（国指定銅鐘）、東光寺（辻元順の墓、芭蕉の句碑）その他がある。



( 図書G: 細谷 浩)

写真説明: 上から1) まちかど蔵「大徳」 2) まちかど蔵「野村」 3) 矢口家住宅。修理のブルーシートが痛々しい

## 「私の細道」(その9)

### 日光 裏見の滝

日光東照宮を参拝した芭蕉と曾良は、仏五左衛門の宿に泊した後、那須に向かうが、その前に、裏見の滝に立ち寄っている。霧降・華厳と共に日光三名瀑に数えられ、当時、滝の裏側に入る道があった。滝の裏側から見えるので裏見の滝という、芭蕉も書いている。「おくのほそ道」には、「岩洞の頂より飛流して百尺、千岩の碧潭に落たり」とある。



暫時は滝に籠るや夏の初 芭蕉

「夏」とは、夏行(安居)という僧侶の行のことで、陰暦4月中旬から始まり、90日間続く。

東照宮を出て、大谷川に沿って国道120号を上流側に車を走らせると、滝の入り口がある。支流沿いに少し山側に入り、駐車場に車を止めて、山道を約10分歩くと、細長い滝が見えてくる。滝見台が設けられており、それ以上近づくことは出来ない。眺めると、滝の内側に道の跡らしきものは見えるが、一般には入れない状態になっていた。見物人は私と妻以外には誰もいなかった。滝壺に落ちる激しい水濁音が、むしろ静寂を誘う。

芭蕉らが滝の裏側に入るとこの音を聞いたとすれば、まさに、籠るという状況であったろうことが理解出来る。俳人長谷川權は、「おくのほそ道」の中でのこの場面を、芭蕉らが危険な長旅に入っていくに際しての安全を祈る「禊」として身を清めたと捉えている。

芭蕉と曾良は、その後、大谷川沿いの含満ガ淵を見て、五左衛門の教えてくれた道を通って那須へ向かったと、「曾良随行日記」には記載されている。我々も、同じ道を辿った。

含満ガ淵は、大谷川の急流の中に、男体山の噴火による溶岩で出来た岩場が散在する奇勝で、正式には憾満ヶ淵と書くらしい。付近に、赤備えをした地藏が並び、ちょっと異界に迷い込んだ気がする。



芭蕉宿泊の地一玉入

芭蕉らが日光を発ったのは4月2日(旧暦)の昼前であった。日光から大谷川沿いに20丁程下り、橋を渡ってせノ尾→川室→

大渡と進み、絹川の仮橋を渡って、船入を経て玉入まで歩いたとある。朝は快晴であったが、午後になって崩れ、雷雨の中の道行であった。この道は、当時、雨が降るとぬかるみになる悪路であった。芭蕉らが川を渡った時には幸い仮橋が使えたが、大雨が降ると橋は流され、その場合には船で渡らねばならない難所であった。芭蕉らは、その夜は玉入で泊した。

現在、芭蕉らの歩いた道路は舗装整備され日光北街道と呼ばれている。我々がここを通った8月29日は晴れており、30℃の暑さの中であったが、芭蕉らの苦労を想像出来る状況ではなかった。この行程は、瀬尾→川室→大渡→船生(ふにゅう)→塩谷となる。曾良の日記にある絹川は鬼怒川。

塩谷町役場を訪ね、観光課で芭蕉の宿泊場所について問うた。役場のすぐ近所の駐車場の脇に宿泊跡があるという。現在の塩谷町大字玉生(たまにゅう)。道路から少し脇道に入り、荒地から林への入り口付近に碑があった。人家らしきものは既になかった。碑には「芭蕉一宿之碑」とある。

夏草に埋もれし翁の泊の跡

俊夫

( パートナー 小松 )

## 平成25年度 霞ヶ浦水質浄化ポスターコンクール表彰式

平成25年12月8日(日)に、センター多目的ホールにて霞ヶ浦水質浄化ポスターコンクール表彰式を開催いたしました。このコンクールは、霞ヶ浦を題材にポスターを描くことで、次代を担う子供たちの水質浄化意識の高揚を図ることを目的としております。

表彰式では、入賞者とそのご家族約170名が出席し、応募総数816作品の中から選ばれた68作品の入賞者に表彰状が授与されました。強調月間事業を含め、ご協力をいただきましたパートナーの皆様はこの場を借りてお礼を申し上げます。

子ども達の素晴らしい作品は、現在、県内各地で巡回展示をしております。お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。

### ○これからの巡回展示スケジュール

展示場所	展示期間
県西生涯学習センター (筑西市野殿1371番地)	平成26年2月4日(火)午後～ 平成26年2月13日(木)午前
霞ヶ浦環境科学センター (土浦市沖宿町1853番地)	平成26年2月15日(土)～ 平成26年2月28日(金)
県政広報コーナー (水戸市笠原町978番地6 県庁2階)	平成26年3月5日(水)～ 平成26年3月13日(木)

### ○県知事賞受賞作品

小学校低学年部門



つくば市立松代小学校

なかこ げんな  
3年 中子 玄那 さん

小学校高学年部門



つくば市立栗原小学校

くぼや たける  
5年 久保谷 尊 さん

中学生部門



稲敷市立東中学校

たかしま かな  
3年 高嶋 香奈 さん

### ○表彰式の様子



パートナーによる受付



表彰式の様子

(センター：渋谷)

### 「パートナー情報誌 香澄」原稿募集

香澄編集部では「香澄」に掲載する原稿を募集しています。内容は問いません。センターでの活動内容や、趣味などなんでも結構です。写真も大歓迎です。原稿はパートナー室のメールボックスに入れていただくか、編集委員に直接お渡しください。多数の皆さんのご投稿をお待ちしております。

(パートナー情報誌 「香澄」編集部)